

## 平成 27 年度第 1 回青森市健康福祉審議会障がい者福祉専門分科会 会議概要

**開催日時** 平成 27 年 5 月 21 日（木）18:30～20:00

**開催場所** 青森市福祉増進センター 3 階中会議室

**出席委員** 前田保会長、石田賢哉委員、鎌田慶弘委員、河合敏雄委員、木村由紀子委員、佐々木秀勝委員、砂田悦子委員、田中文明委員、谷川幸子委員、千葉金作委員、成田祥耕委員、西村綾子委員、船木昭夫委員 《計 13 名》

**欠席委員** なし

**事務局** 健康福祉部長 赤垣敏子、健康福祉部理事 能代谷潤治、障がい者支援課長 長内哲史、同課副参事 吉田光秀、浪岡事務所健康福祉課長 加福拓志、障がい者支援課主幹 白戸高史、同課主幹 奥崎隆浩、同課主査 佐藤進一、同課主査 佐々木栄子 《計 9 名》

- 会議次第**
- 1 開会
  - 2 臨時委員への委嘱状交付
  - 3 健康福祉部長あいさつ
  - 4 委員紹介
  - 5 事務局紹介
  - 6 審議案件
    - (1) 「(仮称) 青森市障がい者計画」の策定について
    - (2) 「青森市障害者計画」のフォローアップについて
    - (3) アンケート調査について
  - 7 その他
  - 8 閉会

### 議事要旨

#### **審議案件(1)「(仮称) 青森市障がい者計画」の策定について**

事務局から、資料 2 のとおり、「(仮称) 青森市障がい者計画」の策定について説明があった。

#### **意見、質疑応答**

なし

#### **議決**

審議案件(1) 「(仮称) 青森市障がい者計画」の策定について、全会一致で了承された。

#### **審議案件(2)「青森市障害者計画」のフォローアップについて**

事務局から、資料 3 のとおり、「青森市障害者計画」のフォローアップについて説明があった。

## 意見、質疑応答

### ○委員

資料の2枚目「第1章 互いを尊重し支え合う社会の形成」「3 目標とする指標」の達成率は65%にならないのではないかと。他にも2ヶ所ほど違っているところがあるので、数値の確認をしてほしい。

それから、後ろから2枚目の「第2節 就労支援の充実」の「第2項 就労移行の支援」について、就労移行支援の主な実績として地域活動支援センターの利用者数を記載しているが、就労活動の支援の場として地域活動支援センターを位置づける内容でいいのか疑問に思う。

### ○事務局

指標の数値については、ご指摘の通り間違いである。もう一度すべての項目を見直す。

就労移行の支援の主な事業として地域活動支援センターについて記載しているが、第一には、就労移行支援事業であると思っている。就労移行支援事業から就労移行に繋がっていない、障がいのある方もそこを選択していないと言う事実があるため、就労移行支援の在り方について、委員の皆様と議論していただきたい。

就労移行支援事業から、なぜ就労移行に繋がっていないのか、なぜ人気がないのかということ、今回の計画策定において検証していかないと真の就労移行にならないのではないかと事務局でも痛感している。

就労移行というのは、どう在るべきなのか、委員の皆様からご助言いただきたい。

### ○委員

「第5章 障害者福祉施設サービスの充実」の今後の課題について、虐待事案が発生していることを踏まえ指導監査を強化するとある。虐待事案のあった施設に対して罰則を出して以降のフォローアップや指導監査を行い、施設から改善計画など出されていると思うが、改めて再度虐待がないようにするための指導が非常に重要であると考えます。指導監査課を独立して設置した思いや、計画性について伺いたい。

### ○事務局

虐待は、決して有ってはならないことである。しかしながら、虐待に対する認識が薄い事業所が見られる。そのことによって事件が起きていることから、指導監査課を新設したばかりでなく、先般3月に、すべての法人の代表者の方へ出席いただき、障がい者虐待とはどういうことかを講義させていただいた。その中で、権利侵害の芽は普段の活動の中で起こり得ることであり、それを虐待に行かせない仕組みとして、虐待のチェックリストによるセルフチェックを行い、さらにそれを事業所の中できちんと定期的に話し合い検証する場を持つようお話した。このことは、指導監査においても重点的に指導している。

また、第三者機関をそれぞれの事業所で設けること、昨年度、あのような事件があったことから、特に社会福祉法人においては、第三者機関、検証機関を設け、外からの目を必ず持つ仕組みを造ることを徹底していただいているが、これが実行に結びつかないといけないので、市の重点項目として、これからも引き続き事業所、施設、法人への指導監査を実施して行く。

○委員

第三者委員やオンブズマンが、施設の中で活動されているかどうか、非常に大きな課題であり、県の施設運営適正化委員会でも課題として捉えている。青森市では、部長からの一喝があったことは、非常に大きな意味があると思う。今後に期待をしたい。

次に、消費者自立支援対策の推進の主な事業として消費生活センターの出前講座が記載されている。障がいのある方自身への消費者教育は、どの程度実施されているのかを、改めて、検証していただきたい。合わせて障がいのある方を対象にした消費者教育、出前講座の具体的な検討を要望する。

○事務局

要望については、市民生活部との連携が必要となる。障がい者計画には、全庁を挙げて、また、関係団体と共に取り組んでいかなければならないことも謳いこむことになるため、その旨、市民生活部に願う。また、障がいのある方の特性ということも踏まえれば、障がい者支援課も一緒に参画することが、非常に重要であり、そのような取り組みが出来るよう庁内で検討して行く。

○委員

障がいのある方の就労移行支援の青森市の状況について、継続支援は人気があるが移行支援は人が集まらないとのことだが、きちんとやっているところもある。集まらない理由があると思うので、具体的にどういう問題があるのか、もう一度教えてもらいたい。

○事務局

就労移行支援について、課題であると認識しており、特別支援学校、就労移行支援事業所、藤チャレンジドの皆様が集まっていただき、意見交換している。

一番の問題は、就労移行支援事業所の役割をわからない方がいることである。特別支援学校の先生方や相談支援事業所に、就労継続支援事業所の上に就労移行支援事業所があり、一般就労を目指す方は、就労移行支援事業所を使うよう周知をしていただいている。就労移行支援事業所の役割が伝わることで、利用者が増えていくものと考えている。

また、制度の仕組みとして、就労継続支援事業の方が、高い賃金をもらうことが出来るという現状がある。

○委員

私もそう思う。経済的な問題も就労移行支援事業所に人が集まらないという部分も、そのまま表すのがいいと思う。

目標とする指標の民間企業における障がい者の雇用率について、行政における雇用率も目標を立てていくという気持ちはあるか。

○事務局

青森市における雇用率については、目標は達成している。より多くの方という視点でのご意見だと思うので、総務部と再度話をしたい。

○委員

資料にページ数を記載してほしい。

「第1章 互いを尊重し支え合う社会の形成」の文面について、ろうあ者と聞こえる方とのコミュニケーションの部分が、この文面だとわかりにくい。平成28年度の差別解消法の施行にあわせて、合理的配慮も付け加えていただきたい。この文章であれば、

聞こえる人たちのものであって、聞こえない人のものが反映されていない感じを受けるので、そのところを検討してもらいたい。

○事務局

計画を作るときにご指摘のところは反映していかなければならないと思っている。遠慮なく私どもに教えていただきたい。

**議決**

審議案件（２）「青森市障害者計画」のフォローアップについて、全会一致で了承された。

**審議案件（３）アンケート調査について**

事務局から、資料４のとおり、アンケート調査について説明があった。

**意見、質疑応答**

○委員

アンケート内容についての説明会を開いてほしい。ろうあ者の高齢者の場合、読んだりすることが難しい方が多いので、説明会を開いてもらいたい、可能かどうか。

○事務局

説明会の開催を検討して参りたい。

**議決**

審議案件（３）アンケート調査について、全会一致で了承された。

**その他**

**意見、質疑応答**

○委員

監査が非常に厳しくなるとの報告があった。私も第３者委員を手がけたが、施設では、役所で調べるべきものは、揃えている。中身や実態が伴ってなくても書類だけはきちんと作っている。例えば、外部研修に出ているはずが、職員から聞くと、出していない。事故報告が出ていないのに、看護日誌からケガをした件数が膨大に見つかる。市で指導監査するときは、書類だけではなく内容をきちんと調べないといけない。

○事務局

委員のご指摘のとおり、書類が揃っていることに対して、辻褄が合っていればいいということではならない。施設は、障がいのある方の人権が守られる、また、守らなければならない場所である。我々も様々な経験を、見る目が多面的になったものと思っている。より一層頑張らせていただきます。

障がい者計画は、アンケート、制度改革、今後の課題を踏まえて、作っていく。今後の課題のとらえ方についても、視点が足りない部分等ご指摘いただきたい。また、アンケートについて、用紙を渡してもわからないこともあると、意見をいただいた。どうすれば、よりやさしいアンケートとなるのかご意見をいただきたい。